

飼料用米の活用と耕種農家との耕畜連携による地域循環型農業の実践

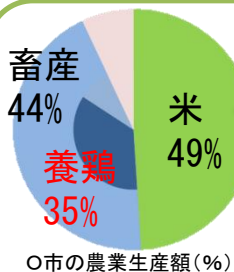
(富山県)

・地域資源を有効活用(飼料用米・有機質肥料)するため、

- ①養鶏農家の規模拡大により飼料用米の利用が拡大し、飼料用米の作付面積が拡大
- ②飼料用米の生産・利用を通じた鶏卵の生産コスト低減と地域のブランドたまごの生産拡大と普及推進
- ③養鶏で発生した鶏糞を有機質肥料として耕種農家に供給し、飼料用米生産に活用する循環型農業の実践

現状と課題

耕種農家と養鶏農家が互いに継続していきことで地域農業が活性化



地域の農業は米と養鶏業で成り立っている。

養鶏農家

- ・飼料コストを低減したい
- ・鶏糞の流通先を確保したい

マッチング

- ・米どころである地域の水田をフル活用し、飼料用米の本格化に取り組みたい

耕種農家

課題

- ・地域で生産される飼料用米の活用
- ・良質な発酵堆肥の活用
- ・鶏卵の生産コストの低減に向けた基盤強化

取組内容

増産される飼料用米に合わせて養鶏農家も規模拡大し、ブランド卵の増産による収益性の向上と地域循環農業の推進

収益性の向上効果

- ◆ 飼養羽数
465千羽→581千羽
- ◆ 飼料コストの低減
(1羽あたりの飼料費)
5%削減
- ◆ 発酵鶏糞散布面積
12%拡大
- ◆ ブランド卵の販売額
51%増加

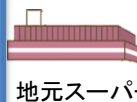
養鶏農家

- ・飼料用米の利用を1.8倍に拡大

- 飼料用米配合割合を5%高める
- 施設整備による規模拡大

- ・飼料費の低減
- ・鶏糞の活用先を確保

施設整備事業でウインドレス鶏舎(2棟)を整備(3.5万羽規模、10万羽規模)



地元スーパー

- ・ブランド卵の販売
- ・耕種と一体となったPR
- ・採卵日を記載し、新鮮さをアピール

飼料用米の輸送

鶏糞堆肥の販売

農協

- ・飼料用米の乾燥調整・保管・流通

耕種農家

- ・飼料用米作付け面積を2.5倍に拡大
- ・飼料米の活用先の確保

飼料用米出荷

今後の展望

- ・養鶏生産基盤を確保し、発酵鶏糞堆肥と飼料用米の利用供給体制を確立した循環型農業を実践
- ・ブランド鶏卵の販売による地域の収益性向上
- ・協議会の取組が県域全体に波及。肉用牛や養豚での飼料用米の活用モデルとして寄与

- 効果1** 耕種農家と養鶏農家が連携し、地域内における飼料用米活用による循環型畜産体制の推進
- 効果2** 地域の飼料生産基盤に立脚した経営によって、生産基盤が強化され収益性が向上